

# ハチクマ

*Pernis apivorus* (Linnaeus)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー

準絶滅危惧

国カテゴリー

準絶滅危惧

## 選定理由

個体数が少なく、人間の生活圏に近い所に生息するため、開発等により生存がおびやかされやすい。

## 形態

全長約60cm。翼開長約1.3m。雄よりも雌が大きい。トビよりもやや小さいタカで、色彩は個体変異が大きい。頭上から後頭、背、腰、尾は褐色で、尾には数本の黒帯がある。顔は青灰色、淡褐色、褐色などいろいろで、胸から腹は淡褐色などの地に黒い縦斑があり、胸と喉の境に黒く太い斑紋がある個体が多い。翼の上面は褐色で下面は淡色の地に黒い横斑がある。

## 国内分布

夏鳥として渡来し、北海道、本州、佐渡で繁殖する。四国、九州、沖縄では渡りの際に通過するが、繁殖はしていない。

## 県内分布

1991年に加賀と能登で初めて繁殖が確認されている。春期の5月中旬頃と秋期の9月から10月上旬にかけて、渡り途中の個体が県内各地で観察される。特に秋期は能美市観音山や加賀市刈安山などで南に渡る個体が多い日には数十羽確認できる。

## 生態

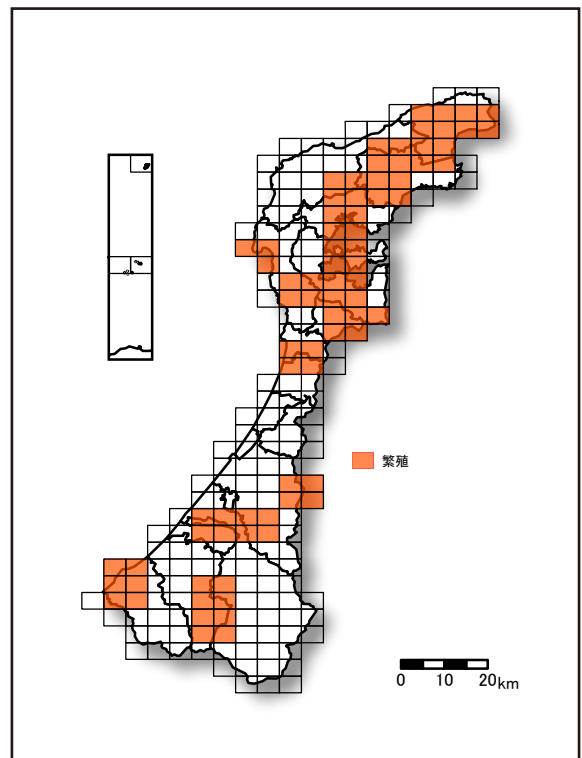
加賀や能登の山地のスギ、アカマツ、モミなどの針葉樹やコナラなどの落葉広葉樹に営巣し、同じ巣を連続して使うことが多い。産卵期は5月下旬から6月下旬で、一腹卵数は1～3個、抱卵日数は35日前後、孵化後約40日で巣立ちする。両生類、爬虫類のほかハチ類の幼虫や蛹を好んで餌にする。

## 生息地の条件

餌となる両生爬虫類やハチ類が豊富に生息し、営巣に適した大木がある山地に生息する。人間活動による悪影響を受けやすく、人為的影響が少ないことが生息地の条件となる。

## 生存の危機

里山に住むため、開発など人為的影響を受けやすい。(A)



県内の分布